

# 介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名

学校法人 崎村学院

研修事業の名称 崎村調理師専門学校介護職員初任者研修通学コース

1 職務の理解 (6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○介護という職業について、介護保険制度下の居宅サービスおよび施設サービスの内容を中心に、その他の介護保険外サービスについて概説する</p> <p>・介護保険サービス（居宅・施設）・介護保険外サービス</p> <p>〈演習内容〉</p> <p>○講義を踏まえ、施設の紹介映像（DVD 教材）を利用して介護サービスの内容および介護サービス提供現場を理解する。</p>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○居宅、施設の多様な働く現場におけそれぞれの仕事内容</p> <p>○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ（現場職員の体験談、サービス事業所における見学等）</p> <p>○ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険サービスを含めた地域の社会資源との連携</p> <p>○各事業所を訪問し、現場職員による体験談、実際のサービス提供の現場の見学で、より深く仕事内容を理解してもらう</p> <p>〈演習内容〉</p> <p>○介護の仕事について、グループディスカッションを行う</p>
合計	6時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	6 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人権と尊厳の保持 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人としての尊重・個別ケア・エンパワメントの視点</li> <li>・「役割」の実感・尊厳のある暮らし・利用者のプライバシー保護</li> </ul> </li> <li>○ICF (国際生活機能分類) <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護分野における ICF</li> </ul> </li> <li>○生活の質 (QOL) <ul style="list-style-type: none"> <li>・QOL の考え方・生活の質</li> </ul> </li> <li>○ノーマライゼーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーマライゼーションの考え方</li> </ul> </li> <li>○虐待防止、身体拘束禁止 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待防止法・高齢者の養護者支援・身体拘束禁止</li> <li>・アドボカシー</li> </ul> </li> <li>○個人の権利を守る制度の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業</li> </ul> </li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○上記講義内容からテーマを選択し、グループディスカッションを行う。</li> </ul>
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
②自立に向けた介護	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自立支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立、自律支援・残存能力の活用・動機と欲求・意欲を高める支援</li> <li>・個別性/個別ケア</li> </ul> </li> <li>○介護予防 <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防の考え方・重度化防止</li> </ul> </li> </ul>
合計	9 時間	

3 介護の基本 (6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護環境の特徴の理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアの方向性・訪問介護と施設介護サービスの違い</li> </ul> </li> <li>○介護の専門性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠ある介護・重度化防止・遅延化の視点</li> <li>・自立した生活を支えるための援助</li> <li>・利用者主体の支援姿勢・多職種から成るチーム</li> <li>・チームケアの重要性・事業所内のチーム</li> </ul> </li> <li>○介護に関わる職種 <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供</li> <li>・チームケアにおける役割分担・介護支援専門員</li> <li>・サービス提供責任者・看護師等とチームとなり、利用者を支える意味</li> </ul> </li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事例紹介の中で、看護師、栄養士、理学療法士等が果たす役割を受講生が列挙した後に、介護職に求められる専門性の特質について討議する</li> </ul>
②介護職の職業倫理	1時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護サービスの公共性と職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職としての社会的責任・専門職の倫理の意義</li> </ul> </li> <li>○利用者・家族に対する責任 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーの保護・尊重</li> </ul> </li> <li>○社会に対する責任</li> </ul> <p>介護の倫理 (介護福祉士の倫理と介護福祉制度等)</p>

<p>③介護における安全の確保 とリスクマネジメント</p>	<p>2 時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護における安全の確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故に結びつく要因を探り対応していく技術・リスクとハザード</li> </ul> </li> <li>○事故予防、安全対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメント・分析手法と視点</li> <li>・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）</li> <li>・情報の共有</li> </ul> </li> <li>○感染対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）</li> <li>・「感染」に対する正しい知識・手洗いの基本・手洗い、うがいの励行</li> <li>・感染症対策</li> </ul> </li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○講師の実演に基づき、手洗い、うがいの方法を全員でシミュレーションする</li> </ul>
<p>④介護職の安全</p>	<p>1 時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○健康管理とリスクマネジメント <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の健康管理が介護の質に影響・腰痛の予防に関する知識</li> <li>・ストレスマネジメント</li> </ul> </li> <li>○介護職の労働の権利と労働法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働基準法</li> </ul> </li> </ul>
<p>合計</p>	<p>6 時間</p>	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護保険制度創設の背景、目的および動向 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予防重視型システムへの転換・地域包括ケアシステムの推進</li> </ul> </li> <li>○介護保険制度の仕組みの基礎的理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保険制度としての基本的仕組み・介護給付と種類・予防給付</li> <li>・ 要介護認定の手順・地域包括支援センターの設置</li> </ul> </li> <li>○制度を支える組織・団体の機能と役割、財源 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定介護サービス事業者の指定・財政負担</li> </ul> </li> <li>○ケアマネジメント <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケアマネジメント</li> </ul> </li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○制度に関わる基本的な用語について、練習問題を解いて知識の確認をする。</li> </ul>
②医療との連携とリハビリテーション	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医行為と介護</li> <li>○医療と介護の連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設における看護と介護の役割、連携・訪問看護</li> </ul> </li> <li>○リハビリテーション職種との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリテーションの理念</li> </ul> </li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医行為であるか問われる具体例を示し、ディスカッションを通してその判断基準を示す。</li> </ul>
③障害福祉制度およびその他制度	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○障害福祉制度の理念 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害の概念・ICF（国際生活機能分類）</li> </ul> </li> <li>○障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</li> </ul> </li> <li>○個人の権利を守る制度の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人情報保護法・成年後見人制度</li> <li>・ 日常生活自立支援事業</li> </ul> </li> </ul>
合計	9 時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○介護におけるコミュニケーションの技法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮・傾聴</li> <li>・共感の応答・言語的コミュニケーションの特徴</li> <li>・非言語コミュニケーションの特徴・信頼関係の形成</li> </ul> <p>○利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼関係の形成・アセスメントの手法とニーズ・デマンドの違い</li> <li>・利用者の感情に共感する・利用者の思いを把握する</li> <li>・意欲低下の要因を考える・家族の心理的理解</li> <li>・家族へのいたわりと励まし・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする・言語的コミュニケーションの特徴</li> <li>・非言語コミュニケーションの特徴</li> </ul> <p>○利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーションの技術</li> <li>・失語症に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・構音障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・認知症に応じたコミュニケーション技術</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <p>○コミュニケーション技法の基本について、実演やロールプレイを通して学習する</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○チームにおけるコミュニケーションとは</p> <p>○コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議・情報共有の場・役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）・ケアカンファレンスの重要性</li> </ul> <p>○報告など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告の留意点・連絡の留意点・相談の留意点</li> </ul> <p>○記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における記録の意義、目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録</li> <li>・介護に関する記録の種類・個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）・ヒヤリハット報告書・5W1H</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <p>○実際に介護記録を記入する○介護記録における情報の共有化</p> <p>○報告・連絡・相談</p>
合計	6 時間	

6 老化の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 <ul style="list-style-type: none"> <li>・喪失体験</li> </ul> </li> <li>○老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 <ul style="list-style-type: none"> <li>・防衛反応（反射）の変化・身体的機能の変化と日常生活への影響</li> <li>・筋、骨、関節の変化・咀嚼機能の低下・体温維持機能の変化</li> <li>・精神的機能の変化と日常生活への影響</li> </ul> </li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○加齢に伴って起こる様々な変化と症状を受講生全員で洗い出す</li> </ul>
②高齢者と健康	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の疾病と生活上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋力の低下と動き、姿勢の変化・骨折・関節痛・喪失体験</li> </ul> </li> <li>○高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・症状の小さな変化に気付く視点・高齢者は感染症にかかりやすい</li> <li>・循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）</li> <li>・循環器障害の危険因子と対策・誤嚥性肺炎</li> <li>・老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）</li> </ul> </li> </ul>
合計	6 時間	

7 認知症の理解(6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症ケアの理念 パーソンセンタードケア</li> <li>・認知症ケアの視点（できることに着目する）・不適切なケア</li> <li>・パーソンセンタードケア</li> </ul>
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症の概念</li> <li>・認知症の定義・もの忘れとの違い・せん妄の症状</li> <li>○認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント</li> <li>○健康管理</li> <li>・健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア）</li> <li>○認知症の治療</li> <li>・治療・薬物療法・認知症に使用される薬</li> <li>・認知症の治療には薬物療法と非薬物療法がある</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症の原因、症状、対応をグループワーク</li> </ul>
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴</li> <li>・認知症の進行に合わせたケア・生活環境で改善・認知症の中核症状</li> <li>・物忘れとの違い・認知症の行動、心理症状（BPSD）・相手の世界に合わせる・失敗しないような状況をつくる</li> <li>○認知症利用者への対応</li> <li>・失敗しないような状況をつくる・プライドを傷つけない</li> <li>・本人の気持ちを推察する・身体を通したコミュニケーション</li> <li>・相手の様子、表情、視線、姿勢などから気持ちを洞察する</li> <li>・すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること</li> <li>・相手の世界にあわせる</li> <li>・認知症の進行に合わせたケア・不適切なケア</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事例をもとに認知症への対応方法をグループで検討する</li> </ul>
④家族への支援	1時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護家族の現状の理解</li> <li>○介護家族による本人の理解とかかわり方</li> <li>・介護負担の軽減（レスパイトケア）</li> </ul>
合計	6時間	

8 障害者の理解(3時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○障害の概念と ICF</li> <li>・ ICF の考え方・ ICF の分類と医学的分類</li> <li>○障害者福祉の基本理念</li> <li>・ ノーマライゼーションの概念</li> <li>○障害者（児）とは</li> </ul>
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身体障害</li> <li>・ 視覚障害・聴覚、平衡障害・音声、言語、咀嚼障害・肢体不自由</li> <li>・ 内部障害</li> <li>○知的障害</li> <li>・ 知的障害</li> <li>○精神障害</li> <li>・ 統合失調症、気分（感情）障害、依存症などの精神疾患</li> <li>・ 高次脳機能障害</li> <li>・ 広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの発達障害</li> <li>○強度行動障害</li> <li>○難病</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実際の症例について ICF を用いて情報を整理し、活動・参加への具体的なアプローチ方法を立案する</li> </ul>
③家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家族への支援</li> <li>・ 障害の理解、障害の受容支援・介護負担の軽減</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事例を基に家族との関わりについてグループごとで討議を行う</li> </ul>
合計	3時間	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
基本知識の学習	①介護の基本的な考え方	6 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護の基本的な考え方</li> <li>・ ICF の視点に基づく生活支援・法的根拠に基づく介護</li> <li>・ 理論に基づく介護・我流介護の排除</li> <li>○重度化防止の視点</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループに分かれて、生活障害という視点から、ICF に基づいて、心身機能と活動・参加との関連を図に示した上で介護の役割を挙げる</li> </ul>
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の心理</li> <li>・ からだの状態がこころに与える影響</li> <li>・ こころの持ち方が行動に与える影響・学習と記憶の基礎知識</li> <li>・ 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因</li> <li>○自己概念と生きがいづくり</li> <li>・ 自己概念と生きがい</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人が生きることと社会参加との関係から高齢者の心身の健康についてグループワークで討議する</li> </ul>
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人体の名称とはたらき</li> <li>・ 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識</li> <li>・ 骨、関節、筋に関する基礎知識</li> <li>○ボディメカニクスの活用</li> <li>・ ボディメカニクスの活用</li> <li>○神経系に関するからだのしくみ</li> <li>・ 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識</li> <li>・ 自律神経と内部器官に関する基礎知識</li> <li>・ こころとからだを一体的に捉える</li> <li>○バイタルチェック</li> <li>・ 利用者の様子の普段との違いに気づく視点</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○バイタルサインチェックの測り方を演習する</li> <li>・ 体温・脈拍・呼吸・血圧</li> </ul>
生活支援技術の学習	④生活と家事	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家事と生活の理解</li> <li>・ 生活歴・自立支援・予防的な対応・主体性、能動性を引き出す</li> <li>・ 多様な生活習慣・価値観</li> <li>○生活援助（家事援助）に関する基礎知識と生活支援</li> <li>・ 生活歴・価値観・自立支援・予防的な対応</li> <li>・ 多様な生活習慣・主体性、能動性を引き出す</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調理、掃除、洗濯、衣服補修</li> </ul>

⑤ 快適な居住環境整備と介護	6 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○住環境整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内に多い事故・バリアフリー・住宅改修</li> </ul> </li> <li>○福祉用具の活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具貸与</li> </ul> </li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○福祉用具を使用、活用方法</li> </ul>
⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○整容に関する基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>・整容行動・身じたく</li> </ul> </li> <li>○整容の介護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・洗面の意義、効果・目、鼻腔、耳、爪の清潔方法</li> </ul> </li> <li>○衣服の着脱の介護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱</li> </ul> </li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○顔の拭き方、爪の手入れ、衣服の着脱、口腔ケア</li> </ul>
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○移動、移乗にの介護の基本 <ul style="list-style-type: none"> <li>・残存能力の活用、自立支援・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法</li> </ul> </li> <li>○体位・姿勢の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>・残存能力の活用、自立支援・利用者の自然な動きの活用</li> <li>・褥瘡予防・ボディメカニクスの基本原則</li> </ul> </li> <li>○移乗を行う際の環境整備</li> <li>○移動・移乗介助に関連する福祉用具 <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動介助（車いす、歩行器、つえ等）</li> </ul> </li> <li>○心身の状態に合わせた移乗介助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディメカニクスの基本原則・重心、重力の働きの理解</li> <li>・移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド、車いす間の移乗、全面介助での車いす、様式トイレ間の移乗）</li> </ul> </li> <li>○移動を行う際の環境整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・残存能力の活用・自立支援</li> </ul> </li> <li>○移動介助と留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動介助（車いす、歩行器、つえ等）</li> <li>・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法</li> </ul> </li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体位、姿勢変換の介助、車椅子介助、歩行介助（肢体不自由者、視覚障害）、移乗</li> </ul>

<p>⑧食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食事に関する基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事をやる意味・食事のケアに対する介護者の意識</li> <li>・咀嚼・嚥下のメカニズム</li> </ul> </li> <li>○食事の介護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤嚥性肺炎の予防・空腹感・満腹感・好み・食事の環境整備（時間・場所等）・低栄養の弊害・脱水の弊害・食事と姿勢・食事に関した福祉用具の活用と介助方法</li> </ul> </li> <li>○口腔ケアの支援技術 <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔ケアの定義・誤嚥性肺炎の予防</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;演習内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食事介助の方法（片麻痺、視覚障害）</li> <li>○トロミ、ミキサー食等の実食</li> </ul>
<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○入浴介助の基本 <ul style="list-style-type: none"> <li>・羞恥心や遠慮への配慮・体調の確認</li> </ul> </li> <li>○入浴介助に関連する福祉用具</li> <li>○入浴介助を行う際の留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調の確認・羞恥心や遠慮への配慮</li> </ul> </li> <li>○入浴介助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・羞恥心や遠慮への配慮</li> </ul> </li> <li>○清潔保持（清拭、陰部洗浄、足浴、手浴、洗髪） <ul style="list-style-type: none"> <li>・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）・陰部洗浄（臥床状態での方法）・足浴、手浴、洗髪・体調の確認</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;演習内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○浴槽を利用した入浴介助、全身清拭、陰部洗浄</li> <li>○ケリーパッドを利用した洗髪</li> </ul>
<p>⑩排せつに関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○排せつ介助の基本 <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄とは・身体面（生理的）での意味・社会的な意味・プライド、羞恥心・心理面での意味・おむつ使用の弊害・おむつは最後の手段・プライバシーの確保・排泄の障害が日常生活上に及ぼす影響・便秘の予防（水分摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担、尊厳や生きる意欲との関連</li> </ul> </li> <li>○排せつ介助に関連する福祉用具</li> <li>○排せつの介助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;演習内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータブルトイレ、尿器、差込便器を利用した排せつ介助、おむつ交換</li> </ul>

生活 支援 技術 演習	⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○睡眠に関する基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安眠のための介護の工夫</li> </ul> </li> <li>○睡眠の介護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安眠のための介護の工夫・環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）・安楽な姿勢・褥瘡予防</li> </ul> </li> <li>○その他の福祉用具 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安楽な姿勢・褥瘡予防</li> </ul> </li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッドメイキング、シーツ交換、シーツのたたみ方</li> </ul>
	⑫死にゆく人に関するこころとからだのしくみと終末期介護	3時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○老いと衰えの理解とその対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期ケアとは</li> <li>・高齢者の死に至る過程【高齢者の自然死（老衰）、癌死】</li> </ul> </li> <li>○ターミナルケアの実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種間の情報共有の必要性・介護従事者の基本的態度</li> <li>・臨終が近づいたときの兆候と介護</li> </ul> </li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な人の死についての体験のグループディスカッションと発表</li> </ul>
	⑬介護過程の基礎的理解	6時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護過程の基礎的理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の目的、意義、展開・介護過程とチームアプローチ</li> </ul> </li> <li>○介護過程の展開の実際</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的な事例を提示して介護計画（個別支援計画）を立案、作成する</li> </ul>
	⑭総合生活支援技術演習	9時間	<p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討</li> <li>こころとからだの力が発揮できない要因の分析</li> <li>適切な支援技術の検討</li> <li>支援技術演習</li> <li>支援技術の課題</li> </ul>
合計		75時間	

10 振り返り (4時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	2時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研修到達度の振り返り</li> <li>・研修を通して学んだこと</li> <li>・根拠に基づく介護についての要点 (利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)・今後継続して学ぶべきこと</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループディスカッションを通して、今後のキャリア形成について見通しを持つ</li> </ul>
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業所における事例を学ぶ</li> <li>・継続的に学ぶべきこと</li> <li>・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例 (OffJT、OJT) を紹介</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○履歴書作成</li> </ul>
合計	4時間	
全カリキュラム合計時間	130時間	

## 講 師 一 覧

事業者名 学校法人 崎村学院

研修事業の名称 崎村調理師専門学校介護職員初任者研修通学コース 令和8年5月1日現在

科目番号／科目名 項目番号／項目名	講師名 * 演習の補助講師は (補助講師)と記載	資格等
1 職務の理解 ①多様なサービスの理解	奥深山 政道	介護支援専門員、介護福祉士
	伊藤 ひとみ	介護支援専門員、介護福祉士
	加藤 洋子	介護支援専門員、介護福祉士
1 職務の理解 ②介護職の仕事内容や 働く現場の理解	奥深山 政道	介護支援専門員、介護福祉士
	伊藤 ひとみ	介護支援専門員、介護福祉士
	加藤 洋子	介護支援専門員、介護福祉士
2 介護における尊厳の保持 自立支援 ①人権と尊厳を支える介護	遠藤 美穂子	看護師
	伊藤 ひとみ	介護支援専門員、介護福祉士
2 介護における尊厳の保持 自立支援 ②自立に向けた介護	遠藤 美穂子	看護師
	柳沢 博美	介護支援専門員、介護福祉士
3 介護の基本 ①介護職の役割、専門性と 多職種との連携	藤本 大悟	介護支援専門員、介護福祉士
	磯部 恵美	介護福祉士
	湯川 公博	介護福祉士
3 介護の基本 ②介護職の職業倫理	藤本 大悟	介護支援専門員、介護福祉士
	磯部 恵美	介護福祉士
	湯川 公博	介護福祉士
3 介護の基本 ③介護における安全の確保と リスクマネジメント	加藤 洋子	介護支援専門員、介護福祉士
	藤本 大悟	介護支援専門員、介護福祉士
	磯部 恵美	介護福祉士
3 介護の基本 ④介護職の安全	加藤 洋子	介護支援専門員、介護福祉士
	磯部 恵美	介護福祉士
4 介護・福祉サービスの理解と 医療との関係 ① 介護保険制度	伊藤 大輔	介護支援専門員
	中村 貴代美	社会福祉士、介護支援専門員
4 介護・福祉サービスの理解と 医療との関係 ②医療との連携と リハビリテーション	遠藤 美穂子	看護師

4 介護・福祉サービスの理解と 医療との関係 ③障害福祉制度及び その他制度	関原 涼太	社会福祉士
5 介護におけるコミュニケー ション技術 ①介護におけるコミュニケー ション	杉崎 美南	介護福祉士
	武井 嘉一	介護福祉士
	葛西 光一	介護福祉士
5 介護におけるコミュニケー ション技術 ②介護におけるチームの コミュニケーション	杉崎 美南	介護福祉士
	武井 嘉一	介護福祉士
	葛西 光一	介護福祉士
6 老化の理解 ①老化に伴うこころとからだの 変化と日常	湯川 公博	介護福祉士
	清水 ひかる	介護福祉士
6 老化の理解 ②高齢者と健康	湯川 公博	介護福祉士
	清水 ひかる	介護福祉士
7 認知症の理解 ①認知症を取り巻く状況	遠藤 美穂子	看護師
7 認知症の理解 ②医学的側面から見た認知症の 基礎と健康管理	遠藤 美穂子	看護師
7 認知症の理解 ③認知症に伴うこころとからだ の変化と日常生活	関 あき子	看護師
	遠藤 美穂子	看護師
7 認知症の理解 ④家族への支援	関 あき子	看護師
	遠藤 美穂子	看護師
8 障害の理解 ① 障害の基礎的理解	三橋 和美	看護師
	加藤 洋子	介護支援専門員、介護福祉士
8 障害の理解 ②障害の医学的側面、生活 障害、心理・行動の特徴、 かかわり支援等の基礎的知識	三橋 和美	看護師
	加藤 洋子	介護支援専門員、介護福祉士
8 障害の理解 ③家族の心理、 かかわり支援の理解	三橋 和美	看護師
	加藤 洋子	介護支援専門員、介護福祉士
9 こころとからだのしくみと 生活支援技術 基礎知識の学習 ①介護の基本的な考え方	露木 修平	介護福祉士
	本山 亮祐	介護福祉士

9 ころとからだのしくみと 生活支援技術 基礎知識の学習 ②介護に関するころの しくみの基礎的理解	露木 修平	介護福祉士
	渋谷 知康	介護福祉士
	本山 亮祐	介護福祉士
9 ころとからだのしくみと 生活支援技術 基礎知識の学習 ③介護に関するからだのしくみ の基礎的理解	露木 修平	介護福祉士
	渋谷 知康	介護福祉士
	武井 嘉一	介護福祉士
9 ころとからだのしくみと 生活支援技術 生活支援技術の講義・演習 ④生活と家事	須藤 千亜紀	介護支援専門員、介護福祉士
9 ころとからだのしくみと 生活支援技術 生活支援技術の講義・演習 ⑤快適な居住環境整備と介護	飯田 員頌	理学療法士
	堀内 典彦	理学療法士
	大町 典嗣	理学療法士
	露木 修平（補助講師）	介護福祉士
9 ころとからだのしくみと 生活支援技術 生活支援技術の講義・演習 ⑥整容に関連したころと からだのしくみと自立に 向けた介護	清水 ひかる	介護福祉士
	杉崎 美南	介護福祉士
	渋谷 知康（補助講師）	介護福祉士
	露木 修平（補助講師）	介護福祉士
	武井 嘉一（補助講師）	介護福祉士
	三橋 裕子（補助講師）	介護福祉士
9 ころとからだのしくみと 生活支援技術 生活支援技術の講義・演習 ⑦移動・移乗に関連した ころとからだのしくみと 自立に向けた介護	武井 嘉一	介護福祉士
	露木 修平	介護福祉士
	杉崎 美南	介護福祉士
	磯部 恵美（補助講師）	介護福祉士
	伊藤 大輔（補助講師）	介護支援専門員、介護福祉士
	清水 ひかる（補助講師）	介護福祉士
	三橋 裕子（補助講師）	介護福祉士
9 ころとからだのしくみと 生活支援技術 生活支援技術の講義・演習 ⑧食事に関連した ころとからだのしくみと 自立に向けた介護	葛西 光一	介護福祉士
	杉崎 美南	介護福祉士
	磯部 恵美（補助講師）	介護福祉士
	渋谷 知康（補助講師）	介護福祉士
	清水 ひかる（補助講師）	介護福祉士
	三橋 裕子（補助講師）	介護福祉士
9 ころとからだのしくみと	葛西 光一	介護福祉士

生活支援技術 生活支援技術の講義・演習 ⑨入浴・清潔保持に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	武井 嘉一	介護福祉士
	伊藤 大輔（補助講師）	介護支援専門員、介護福祉士
	渋谷 知康（補助講師）	介護福祉士
	清水 ひかる（補助講師）	介護福祉士
	三橋 裕子（補助講師）	介護福祉士
9 こころとからだのしくみと 生活支援技術 生活支援技術の講義・演習 ⑩排泄に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	葛西 光一	介護福祉士
	露木 修平	介護福祉士
	渋谷 知康	介護福祉士
	武井 嘉一（補助講師）	介護福祉士
	三橋 裕子（補助講師）	介護福祉士
	清水 ひかる（補助講師）	介護福祉士
	伊藤 大輔（補助講師）	介護支援専門員、介護福祉士
9 こころとからだのしくみと 生活支援技術 生活支援技術の講義・演習 ⑪睡眠に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	露木 修平	介護福祉士
	渋谷 知康	介護福祉士
	杉崎 美南	介護福祉士
	武井 嘉一（補助講師）	介護福祉士
	磯部 恵美（補助講師）	介護福祉士
	伊藤 大輔（補助講師）	介護支援専門員、介護福祉士
9 こころとからだのしくみと 生活支援技術 生活支援技術の講義・演習 ⑫死にゆく人に関する こころとからだのしくみと 終末期介護	遠藤 美穂子	看護師
	渋谷 知康	介護福祉士
	湯川 公博	介護福祉士
	清水 ひかる（補助講師）	介護福祉士
	武井 嘉一（補助講師）	介護福祉士
	伊藤 大輔（補助講師）	介護支援専門員、介護福祉士
9 こころとからだのしくみと 生活支援技術 生活支援技術演習 ⑬介護過程の基礎的理解	奥深山 政道	介護支援専門員、介護福祉士
	伊藤 ひとみ	介護支援専門員、介護福祉士
	葛西 光一	介護福祉士
	清水 ひかる（補助講師）	介護福祉士
	渋谷 知康（補助講師）	介護福祉士
9 こころとからだのしくみと 生活支援技術 生活支援技術演習 ⑭総合生活支援技術演習	奥深山 政道	介護福祉士
	湯川 公博	介護福祉士
	清水 ひかる	介護福祉士
	武井 嘉一（補助講師）	介護福祉士
	渋谷 知康（補助講師）	介護福祉士
	露木 修平（補助講師）	介護福祉士
	三橋 裕子（補助講師）	介護福祉士
10 振り返り	奥深山 政道	介護福祉士

①振り返り	本山 亮祐	介護福祉士
	清水 ひかる	介護福祉士
	渋谷 知康	介護福祉士
10 振り返り	奥深山 政道	介護福祉士
②就業への備えと研修終了後における継続的な研修	本山 亮祐	介護福祉士
	藤本 大悟	介護支援専門員、介護福祉士
	清水 ひかる	介護福祉士